

道 徳 部 会

研究主題

思いやりの心を持ち、進んで実践する子どもの育成

1 主題について

道徳部会では、他者を思いやる気持ちや豊かな人間性の育成をめざして研究を進めていくことを確認した。今年度は、資料から離れて自分を見つめる時間（展開後段）をどう充実させていくかについて研究を深めた。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月13日	第1回 総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月 9日	第2回 総合研究会 授業研究会（大葛小学校）
9月13日	指導案検討会（大葛小学校）		

3 研究内容

(1) 授業研究Ⅰ

- ・期 日 平成23年11月9日（水）
- ・主 題 名 2・3年複式「楽しい学校」（4—（4）愛校心）
- ・資 料 名 「学校大すき」（学研）
- ・会 場 大葛小学校
- ・授業者 藤盛 和子

① 授業者から

- ・「友だちや学校は好き。」と言っている子どもたちだが、統合に向けて考えさせたかった。
- ・主人公の気持ちにスムーズに入ることができた。大葛小ならではの発表が出たと思う。
- ・資料の読み取りに時間を取り過ぎた。大葛の事をたくさん語らせたかった。

② 協 議

- ・東館小学校への手紙を書く時間をもっと確保し、書くことに集中させたらどうか。
- ・何気ないことは、実はとても楽しいことだという進め方がよかった。大葛のよさも確認できたと思う。
- ・東館小の子どもたちの出番（ビデオレターなど）があれば、お互いに思いがあることを感じることができる。
- ・2年生と3年生では、シートに書く内容に反応の違いが見受けられた。シートに書いている子どもたちへの教師の声かけが効果的であった。
- ・1時間の中で、2回シートに書かせると子どもたちの考えが整理される。



【教頭先生のお話を聞く子どもたち】

(2) 授業研究Ⅱ

- ・主 題 名 6年「よりよい学校に」（4—（6）愛校心）
- ・資 料 名 「伝統を受けつぐ」（東京書籍 秋田県版）
- ・授業者 小澤 栄子

- ① 授業者から
- ・大葛小の最後の6年生であるという気持ちを高められるように配慮した。
 - ・展開後段の時間を意図的に多く取った。
 - ・「引き継ぎたい思い」と「ふるさと」の両方の取り扱ったことは効果的であったらうか。



【地域の方のお話を聞く】

- ② 協議
- ・「大葛魂」の言葉を掲げ、堂々と発表していた。
 - ・「郷土愛」よりも「愛校心」で終わる授業にしてはどうか。
 - ・普段から身の回りのよさに気付く活動の積み重ねが感じられた。校歌の歌詞を使った気付きを引き出す方法（書き込みなど）もある。
 - ・ゲストティーチャーの大葛の歴史や思い出のお話の内容がとてもよかった。知らないことをたくさん知ることができたと思う。視覚に訴える資料や限られた時間でお話できる方の人選が大切になるが、ビデオ映像などで地域のたくさんの方を登場させる方法もある。

(3) 指導助言(一関 光 指導主事)

- ① 授業について（2・3年生複式）
- ・少人数でもしっかり挙手し、自分の考えを述べていた。普段の取り組みの表れである。
 - ・学校に関する写真の提示が効果的だった。学校にいる様々な先生の存在が意識できた。
 - ・本資料の場合、前半で一問ずつ丁寧に発問しなくても、児童にどんどん発言させながら読み取らせることができたと思う。そうすることで、後半に十分な時間が確保できる。
- ② 授業について（6年生）
- ・妥当な中心発問だった。子どもの反応や板書が予定通り進み、ややあっさりしていたが、そのぶん後段のGTのお話の時間をしっかり確保できた。
 - ・「一般化」で書く活動を取り入れたことがよかった。書くことを継続すると児童の心の記録の蓄積になり、変容も見取ることができる。
 - ・GTの活用が効果的であった。ただし「愛校心」と「郷土愛」の二つの価値を扱うよりも中心価値に絞った方がよかった。中心価値が揺れないようにすることが大切である。
- ③ テーマ研究について
- ・一時間の授業で児童の変容を求めない。変容を見つける目と把握する手段をもちたい。
 - ・一般化は、反省でなく内省である。自己の生き方についての考えを深めさせたい。
 - ・道徳の時間で扱う価値と関連ある教育活動を全体構想に位置付けて授業を構成したい。
 - ・終末では価値の押し付けや呼びかけにならないように、余韻をもって終えたい。
 - ・キャリア教育との関連～道徳の時間とキャリア教育のねらいの違いに留意しながら、配布資料を参考にキャリア教育の視点を生かした取り組みを工夫したい。

4 成果と課題

- (1) 成果
- ・授業研究会を通して、価値への印象を深めるための展開後段の工夫についての研修を深めることができた。
- (2) 課題
- ・より価値に迫るための、書く活動の取り入れ方についてさらに研修を深めたい。